

各拠点病院が重点的に取り組んでいるがん対策(2025年度)

1. がんの予防

①生活習慣(喫煙) ②生活習慣(飲酒) ③感染症対策(HPV) ④感染症対策(肝炎) ⑤感染症対策(HTLV-1)

2024年度

①禁煙外来の再開⇒当分見通しがつかず

2. がん検診

①科学的根拠に基づくがん検診の実施について ②がん検診の精度管理等について ③受診率対策について

2024年度

①大腸がん激減プロジェクトで何らかの方針が示された場合はそれに従う
当院からも委員を選出しプロジェクトに参加している。

3. がん医療提供体制

①医療提供全般 ②病理診断 ③がんゲノム医療 ④手術療法 ⑤放射線療法 ⑥薬物療法 ⑦チーム医療の推進 ⑧医療実装

2024年度

①がん遺伝子パネル検査の院外からの受け入れを開始する。5月から受け入れを開始した。
②DPC-QIの結果をPDCAサイクルを用いて活用する。
③次年度からのロボット手術導入の準備を行う →複数の科で導入済み。
④放射線治療機器更新のために放射線治療が下半期は休止となるため周辺施設との連携を図り放射線治療が適切な施設で滞りなく行えるように支援する。→休止期間中の放射線治療を琉大病院、中頭病院、沖縄病院にご協力頂いている。⇒2025年5月からの放射線治療再開の準備中
⑤遺伝に関するセンターの開設を準備中。遺伝カウンセラーを今年度から雇用している。9月に遺伝診療部開設。

4. 緩和・支持療法

①緩和ケア ②在宅療法 ③リハビリテーション ④支持療法 ⑤妊孕性温存療法

2024年度

①がんリハビリテーション研修に理学療法士を派遣し、県内のがんリハビリテーションの質の向上を目指す。9月の研修会に参加した。
②グループ指定の八重山病院と宮古病院と共催で1回ずつ年2回の緩和ケア研修会を10月と11月に開催した。

5. 個別のがん対策

①希少がん ②難治性がん ③小児がん ④AYA世代のがん ⑤高齢者のがん ⑥離島・へき地

2024年度

①希少がんや難治がん患者の診療において、国立がん研究センターの希少がんセンター等へのセカンドオピニオンやがん遺伝子パネル検査を有効に活用し、県内で中心的な役割を果たしていく。

②石垣・宮古地区とはグループ指定のがん診療病院との連携を継続し、北部地区の県立北部病院への医師派遣の拡充を通して離島・へき地のがん診療をサポートする。5月に八重山病院と宮古病院でがん遺伝子パネル検査の当院での運用についての説明会を開催し遺伝子パネル検査を受け付けている。⇒家族の渡航費などの経済的な負担を軽減するために各がん診療病院での腫瘍内科外来でご家族に説明する運用を開始した。

③妊孕性温存療法に関する情報提供を推進する。

6. 共生

①相談支援 ②情報提供 ③デジタル化 ④就労支援(医療機関側) ⑤就労支援(職場側) ⑥アピアランスケア ⑦自殺対策 ⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭

2024年

①がん相談支援室の人員を増やし、依頼方法を簡略化する事でより多くのがん患者にがん相談支援室が関わる体制を構築する。 ②ア

ピアランス支援事業の周知の推進

7. 基盤

①研究の推進 ②人材育成の強化 ③がん教育及びがんに関する知識の普及啓発 ④がん登録の利活用の推進 ⑤患者・市民参画の推進

2024年度

①コメディカルの専門資格取得を奨励する。

②医療従事者を対象とした講演会を増やす

6月に中部徳洲会の疼痛緩和科の専門家を招いて講演会を行った。11月に拠点病院の研修会として専門家を招いてがん診療に関する講演会を行った。2025年4月23日に放射線治療に関しての講演会を予定している。